— 記者発表資料 —

平成 29 年 2 月 8 日

日本下水道事業団

－　余剰汚泥発生量を大幅に削減する技術により、下水道経営効率化を推進　－

平成 28 年度 B-DASH プロジェクト
「特殊繊維担体を用いた余剰汚泥削減型水処理技術実証研究」
実証施設の完成記念式典を開催します

日本下水道事業団（JS）では、(株)IHI 環境エンジニアリング・帝人(株)・JS・辰野町からなる共同研究体として、国土交通省が実施する平成 28 年度 B-DASH プロジェクト※において、国土交通省国土技術政策総合研究所からの委託により、「特殊繊維担体を用いた余剰汚泥削減型水処理技術実証研究」を実施しています。

本技術は、オキシデーションディッチ（OD）法を代替する水処理技術として、「反応タンクの多段化」と「特殊繊維担体の利用」により、余剰汚泥発生量を大幅に削減し、汚泥処理施設・設備の縮小化および維持管理費の削減を図ることで、ライフサイクルコスト（LCC）の低減を実現するもので、平成 28 年 7 月から、実証フィールドである辰野水処理センター（長野県辰野町）にて、実証研究に取り組んでいます。

このたび実証施設が完成したことを記念しまして、下記のとおり完成記念式典を開催する運びとなりましたので、ご案内いたします。

記

日　　時	平成 29 年 2 月 13 日（月）13 時 30 分～15 時 10 分（受付開始 12 時 50 分）
会　　場	辰野町役場 大会議室 及び 辰野水処理センター （長野県上伊那郡辰野町中央 1 番地　他）
主　　催	(株)IHI 環境エンジニアリング・帝人(株)・JS・辰野町　共同研究体
付帯行事	式典終了後、現地にて施設見学会を開催します。
そ の 他	報道機関の方の完成式典当日の取材については、別紙にてお申し込み下さい。

（問い合わせ先）
技術戦略部 上席調査役 橋本 敏一
TEL：03-6361-7844
FAX：03-5805-1828
E-mail：Hashimotot@jswa.go.jp

以上

※：下水道革新的技術実証事業（B-DASH プロジェクト：Breakthrough by Dynamic Approach in Sewage High Technology Project）：下水道における新技術について、民間企業、地方公共団体、大学等が連携して行う実規模レベルの実証研究

別紙

完成式典当日の取材については、必要事項をご記入の上、
２月１０日（金）正午までに下記までお申し込み下さい。また、完成式典に関するご質問についても下記までお問い合わせください。

(株)IHI 環境エンジニアリング
営業部　黒澤　宛
TEL：03-3642-8361　FAX：03-3642-6023
E-mail：kurosawa-jiyun@ike.ihi.co.jp

国土交通省　下水道革新的技術実証事業（B-DASH プロジェクト）
「特殊繊維担体を用いた余剰汚泥削減型水処理技術実証研究」
完成記念式典　取材申込書

会社名	氏名	連絡先（携帯番号等）

【その他】※何かご要望があれば記載ください。

＜補足資料＞

１．実証研究の概要

反応タンクの多段化と特殊繊維担体の利用により、余剰汚泥発生量を大幅に削減することで、汚泥処理設備の規模を縮小化することが可能な水処理技術について、汚泥削減効果やライフサイクルコスト（ＬＣＣ）低減効果等を実証します。

２．実施者

㈱ＩＨＩ環境エンジニアリング、帝人㈱、ＪＳ、辰野町　共同研究体

３．実証フィールド

辰野水処理センター（長野県辰野町）

表1 水処理センターの概要

水処理方式	OD 法（分流式）
汚泥処理方式	重力濃縮→脱水→場外搬出
現有水処理能力	6,270m^3/日（日最大）
処理水量（日平均）	4,930m^3/日
供用開始年月	平成４年３月

図 1 辰野町の位置

４．実証技術の特徴

① 余剰汚泥発生量を削減

反応タンクの多段化と特殊繊維担体の併用で、OD 法と比較して余剰汚泥発生量を大幅に削減

② 特殊繊維担体

汚泥肥大化を抑制し担体間の閉塞を防止するため、特殊繊維担体の構造および配置を工夫

③ 容易性・柔軟性

従来技術（OD 法）と反応タンクの水理学的滞留時間がほぼ同一で、既存設備の流用が容易

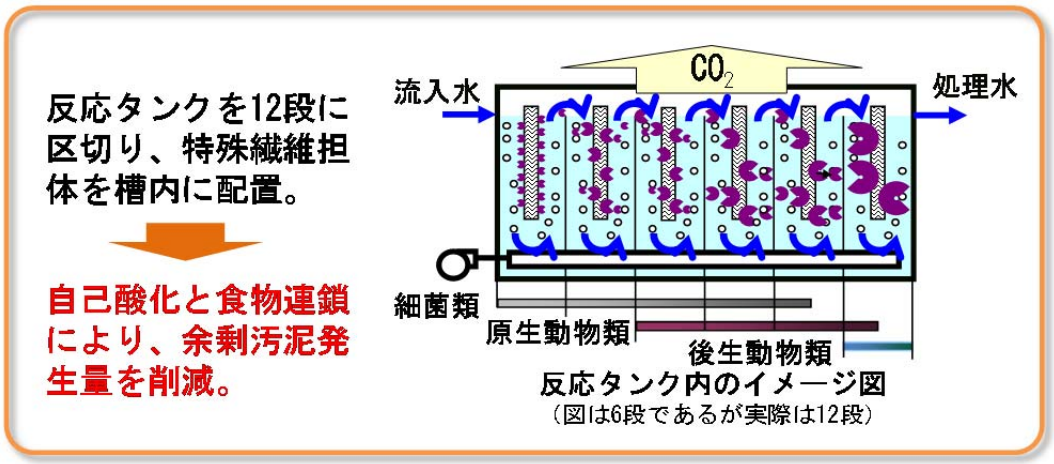

図 2 実証技術の特徴

５．期待される効果

- 汚泥処分費の削減
- 汚泥処理に係る薬品費・電力費の削減
- 汚泥処理に係る設備規模の縮小化による汚泥処理設備更新費の削減

⇒下水処理施設のＬＣＣを低減し、下水道経営の改善、持続的な経営に貢献します。

６．実証施設の概要

実証施設は、既設のＯＤ槽の土木躯体を一部改造し、これに特殊繊維担体ユニットを設置するなどにより建設しました。平成２８年７月から建設工事に着手し、平成２８年１２月には立上げ運転を開始しました。

表 2　実証施設の諸元

処理水量	1,700m^3/日
反応槽容積	約 2,200m^3
反応槽 HRT	31 時間
BOD 容積負荷	0.2 kg-BOD/m^3・日
終沈水面積負荷	約 8m^3/m^2・日

写真１　実証施設の全景

写真 2　特殊繊維担体（左：全体、右上：ろ材、右下：ろ材断面）

写真 3　特殊繊維担体の設置状況（反応槽内部）